

(3) 桑名の火山灰層

年 組 席・名前()

1 火山灰の堆積

次の理由から、火山灰の地層(火山灰層)は地層を調べるカギとなる。カギ層と言う。

①

②

2 火山灰層で区分させる奄芸層群。

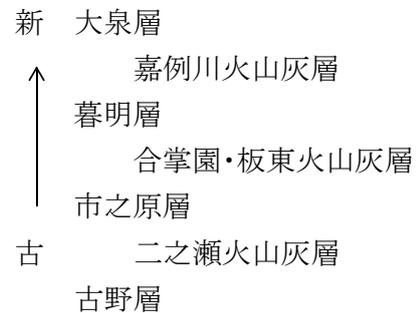
(1) 地代の区切り

400万年前から200万年前頃、今の名古屋市を中心として琵琶湖の6倍の淡水湖(東海湖)があった。ここに堆積した地層を奄芸層群という。桑名で見られる奄芸層群は、市之原層、暮明層、大泉層であり、火山灰でそれぞれを区切っている。

参考)

100万年以前(奄芸層群)は火山灰で地代を区切っている。現在~40万年前は、段丘面(段丘面の高さ)で地代を区切っている。地層は下の方が古い、段丘面は高い方が古い。(段丘については後で学習する)

奄芸層群



3 桑名で見られる奄芸層群

(1) 市之原層

青粘土、シルト、砂及びチャートを主とする丸びをおびたれきの互層。

(2) 暮明層

チャート、濃飛流紋岩のうひりゆうもんがん、砂岩よりなる黄褐色の砂れき層で途中に軽石火山灰層が3層ある。濃飛流紋岩の円れきを含むことから、木曾川上流から桑名の方に流されてきたものと思われる。

質問 軽石火山灰層が3層あるということは何を意味していますか。

(3) 大泉層

青緑色の粘土を主として、黄褐色の砂と砂れきの互層。一番下の層に軽石火山灰層がある。

土地の変動があり、今まで流れてきた濃飛流紋岩が、隆起してできた山地のため流れてこなくなった。

作業 右の桑名丘陵地地質柱状図の「タフ」「パミスタフ」や記号「V」は火山灰の地層を表しています。記号「V」の地層に色を塗りましょう。

